

## 同一巣箱を利用したオオコノハズク *Otus lempiji* と ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* の営巣例

荒木 信

荒木医院

### The Nesting Record of Collared Scops Owl *Otus lempiji* and Broad-billed Rollers *Eurystomus orientalis* at Same Nest Box

Makoto ARAKI

Araki Clinic, 2-10-19 Yokogawa, Nishi-ku, Hiroshima 733-0011

**Abstract :** *Otus lempiji* and *Eurystomus orientalis* nested at same nest box during staggered period. The tree caves for those nesting site in natural is in insufficient. It was found that the nest boxes for *E. orientalis* is effective for conservation not only of *E. orientalis* but also of *O. lempiji*.

©2009 Kitahiroshima-cho Board of Education, All rights reserved.

#### はじめに

オオコノハズク *Otus lempiji* とブッポウソウ *Eurystomus orientalis* はともに樹洞利用型の繁殖様式の鳥類である。ブッポウソウは中国地方では、木製電柱に開けられた巣穴で繁殖するものが多く見られたが、近年、木製電柱のコンクリート電柱への立て替えによる巣穴の消滅により繁殖数が減少した(飯田 1992)。そこで、広島、岡山両県では 1990 年代後半から電柱への巣箱の架設が進められ、繁殖個体数の増加が図られつつある(飯田 2001, 丸山ほか 2004, 松田ほか 2003, 2007)。オオコノハズクも本来の営巣場所である樹洞の減少のため、近年、民家の軒下や屋根裏、橋梁の隙間等に営巣するようになっている。留鳥であるオオコノハズクの繁殖は 4 月に始まるとされている(日本野鳥の会広島県支部 1998)。

一方、夏鳥であるブッポウソウは早い時には 4 月下旬につがい形成が観察されている(日本野鳥の会広島県支部 1998)。県内でオオコノハズクの雛が見られるのは 5 月初旬から 7 月下旬までであり、ブッポウソウの雛が見られるのは 5 月下旬から 7 月下旬までとされている(日本野鳥の会広島県支部 1998)。そのため、両種間で巣箱をめぐる競合があることは容易に予想される。オオコノハズクの巣箱での繁殖例については山口県での報告がある(小林ほか 1999)。また、ブッポウソウのために架設した巣箱を利用する鳥類としてはスズメ *Passer montanus*, オオコノハズク, アオバズク *Ninox scutulata*, ヤマガラ *Parus varius*, ヒガラ *P. ater*, シジュウカラ *P. major* があげられている(松田ほか 2003)。

このたび、ブッポウソウのために架設された巣箱でオオコノハズクが営巣し、その後、同一巣箱でブッポウソウが営巣した事を観察したので報告する。

## 調 査 地

巣箱は広島市安佐北区安佐町久地（34° 32' N, 132° 23' E）の電柱に架設されている。そこは標高約 80 m で、太田川水系の高山川ぞいの水田地帯である。電柱の奥 100 m には宇賀ダムの堰堤がある。高山川をはさむ西斜面は広葉樹林で、東側斜面はスギ *Cryptomeria japonica* の植林地である（図 1、図版 1- A）。

巣箱が架設されたコンクリート製電柱は水田に面しており、東斜面との境に位置している。巣箱は 2002 年にブッポウソウの増殖を目的として中国電力株式会社により架設されたものである（図版 1- B）。

巣箱は厚さ 1.5cm のスギ板を使用して作られ、大きさは内径幅 21cm，奥行 24cm，出入口側の高さ 31cm，出入口は直径 8cm で、中心から底面まで 21cm で、東北東に開口している。農家からは約 50 m 離れているが、電柱から 1 m 離れた場所には工事用のプレハブの事務所がある（図版 1- B）。農家の街灯の光は巣箱を照らすことはない。電柱の前 3 m には舗装した農道がある。

## 調 査 方 法

ブッポウソウとオオコノハズクの繁殖調査は 2007 年 5 月 20 日から 7 月 14 日にかけて、のべ 10 日間行った。観察には 10 倍の双眼鏡と 20 倍の望遠鏡を用い、巣箱から約 20 ～ 40 m 離れた位置から観察した。

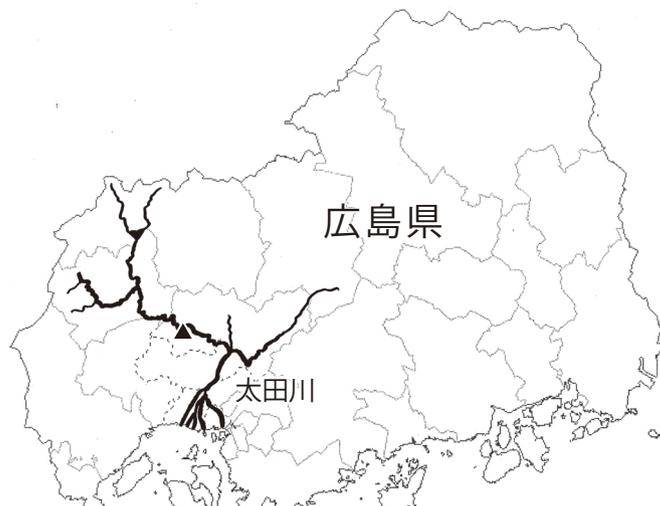


図 1 調査地の位置

## 調査結果

2007年5月20日から7月14日にかけてのブッポウソウ用巣箱におけるオオコノハズクとブッポウソウの繁殖経過を図2に示す。

2007年5月20日に、巣箱内にオオコノハズクの頭部が見られた。

5月24日の17:30に、巣箱内に橙色の虹彩と嘴が見られ、オオコノハズクであることを確認した(図版1-C)。18:00に100m離れた枯れマツにとまっていた2羽のブッポウソウが鳴きながら斜面をくだって飛来し、1羽が巣穴の縁にとまり中をのぞきこんで鳴いたあと、電線にとまっていたもう1羽のブッポウソウとともに、もとの枯れマツに戻った。その後、2羽のブッポウソウはフライングキャッチで採餌を始め、20:05にオオコノハズクが巣箱に入った。

5月26日の19:45に、オオコノハズクが巣箱から飛びたち、20:25に巣箱に入った。

6月3日の20:50に、オオコノハズクの雄が巣箱内の雌にネズミを給餌した。給餌を受けた雌は2~3分間巣箱から顔を出していた(図版1-D)。

6月9日には、巣箱から雌が顔を出していることが多かった。

6月10日以後、オオコノハズクの姿を見ることはなかった。

6月23日に、巣箱のそばの電線でブッポウソウが雄から雌に甲虫類を受け渡す求愛給餌が見られた。

6月30日に、西斜面の枯れマツの枝に2羽のブッポウソウが並び、嘴を少し開けて頸を上下させるディスプレイが見られた。

7月8日に、枯れマツを見張り場として、ブッポウソウの巣箱への出入りが観察された(図版1-E)。

7月14日には、ブッポウソウが巣穴に上半身を入れて雌へ給餌しているのが観察された。

## 考察

留鳥であるオオコノハズクの繁殖は4月に始まるとされ、5月下旬には雛が巣立ちすることが知られている(日本野鳥の会広島県支部1998)。今回の観察では、オオコノハズクの巣立ち雛は確認できなかったが、6月9日まで巣箱内に雌が見られ、時期的には十分雛が巣立つ時期であり、オオコノハズクの雛が巣立った可能性がある(図2)。一方、夏鳥であるブッポウソウは早い時には4月下旬につがい形成が観察され、6月上旬には産卵を開始し、7月下旬には雛が巣立

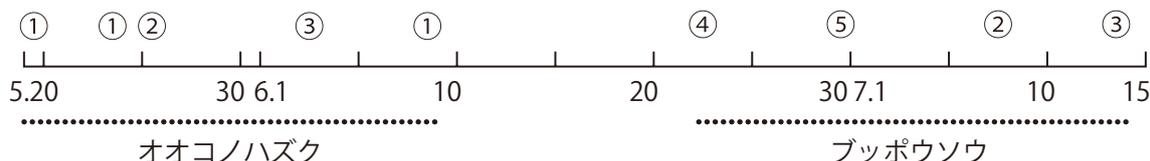


図2 オオコノハズクとブッポウソウの繁殖経過. ①巣箱内で確認 ②巣箱への出入り  
③育雛(給餌) ④求愛給餌 ⑤ディスプレイ

つ（松田ほか 2003）。今回観察したブッポウソウのつがいで、6月23日に巣箱のそばで求愛給餌をし、6月30日にディスプレイが見られ、7月8日に巣箱への出入りが観察された（図2）。これは本来のブッポウソウの繁殖スケジュールから約1ヶ月遅れている。5月24日にオオコノハズクが営巣している巣箱をブッポウソウのつがいがのぞき込みに来ている。おそらくこのブッポウソウのつがいはオオコノハズクの雛が巣立つのを待って、巣立ったあとの巣箱を利用して営巣したものと考えられる。あるいは、他の場所で繁殖に失敗し、オオコノハズクが巣立ったあとの巣箱を利用した可能性も考えられる。いずれにせよ、ブッポウソウとオオコノハズクの本来の営巣場所である樹洞が不足しているためか、オオコノハズクが利用したあとの巣箱をブッポウソウが利用することは興味深い。

ブッポウソウ用の巣箱を架設する環境に必要な条件として、5項目が挙げられている（丸山ほか 2004）。今回ブッポウソウとオオコノハズクが利用した巣箱は、周囲を多数の人が往来する環境にあり、丸山らが挙げた必要な条件の一つを満たしていない。それにもかかわらず、この巣箱を両種が繁殖に利用したことから、両種の繁殖環境が悪化していると考えられる。県内ではブッポウソウは絶滅危惧種に、オオコノハズクは希少種に指定されており（広島県 2004）、ブッポウソウ用巣箱はオオコノハズクの保護策にも有効であることが明らかになった。

## 謝 辞

本報告を行うにあたり、発表の機会を与えて頂いた広島県立廿日市特別支援学校の上野吉雄氏に厚くお礼申し上げます。

## 摘 要

1. 広島市においてブッポウソウのために設置された電柱の巣箱を利用して、オオコノハズクが営巣したのち、その同じ巣箱でブッポウソウが続いて営巣したのを観察した。
2. オオコノハズクとブッポウソウの本来の繁殖場所である天然樹洞が不足しているため、両種が時差的にブッポウソウ用巣箱を利用した例であり、ブッポウソウ用巣箱は両種の保護増殖に有効であることが明らかになった。

## 引 用 文 献

- 飯田知彦 1992 電柱を営巣場所にするブッポウソウ *Eurystomus orientalis* の繁殖分布 Strix 11 : 99-108 日本 野鳥の会
- 飯田知彦 2001 人工構造物への巣箱架設によるブッポウソウの保護増殖策 日本鳥学会誌 50 : 43-45
- 小林繁樹・深町 修・藤井君子 1999 オオコノハズクの山口県における繁殖 Strix 17 : 181-185
- 丸山健司・遠藤裕司・大谷良房 2004 ブッポウソウの巣箱設置による保護活動 Strix 22:111-112
- 松田 賢・植田秀明・上野吉雄 2003 温井ダム管理施設への巣箱架設によるブッポウソウの保護増

殖の試み 高原の自然史 8：23-47

松田 賢・植田秀明・上野吉雄 2007 ブッポウソウの給餌活動の日周変化と餌内容 高原の自然史  
12：57-73

日本野鳥の会広島県支部 1998 ひろしま野鳥図鑑 268pp. 中国新聞社

広島県 2004 改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま 2003—  
52pp. 広島県

2008年9月5日受付；2009年1月18日受理

図 版 1

A：営巣環境	2007年11月23日
B：架設巣箱	2007年5月24日
C：巣箱内のオオコノハズク	2007年5月26日
D：ノネズミをくわえるオオコノハズク	2007年6月3日
E：巣箱から出るブッポウソウ	2007年7月8日

图 版 1



A



B



C



D



E